

「はなちゃんのみそ汁」で有名な安武はなさんが書いた手紙です。

小林麻央様

はじめまして。

私は安武はなと言います。

8年前の夏、お母さんをがんで亡くしました。

お母さんは33歳でした。私はそのとき5歳でした。それからお父さんと二人で暮らしています。

今、中学2年生になりました。

お母さんが闘病中、お父さんは「必ず治る」と言い続けていました。今日、新聞で海老蔵さんがお父さんと同じことを言っていることを知り、どうしても手紙を書きたくなりました。

お母さんの口癖は、「食べることは、生きること」でした。私は、毎日、お母さんに作り方を教えてもらったみそ汁を飲んでいるので、風邪もひかないし、重い病気にもなりません。

食べ物の力はすごいです。

麻央さんも、しっかり、ご飯を食べてくださいね。

お母さんと私とお父さんが胸に付けていた「無敵」のバッジを同封しています。

病気が治ることを祈っています。

2016年10月2日

安 武 は な

保健室 N 先生のお父さんも、高校生の時に病気で亡くなりました。

朝、「いってきます」と家をでて、次に会ったのは病院のベッドの上。もう動かなくなっていました。

どんなに気をつけていても、どんなに予防していても、病気になってしまうことがあります。

そして、病気になったことを、自分やだれかのせいにして、傷をつけてしまうこともあります。

でも、本当は、誰のせいでもありません。だれかを責める必要もありません。

ウイルスは目には見えません。どんなに体に入れないようにと努力をしても、知らないうちに体の中に入ってしまう。でも、ただおびえるだけでは、ウイルスに負けてしまいます。

だからこそ、免疫力を高めることが大切です。ウイルスが中に入ってきてでも打ち勝つ力をつくるということです。

そのために必要なことは「食事・運動・睡眠！！」です。

まだできることがあったら、先延ばしにしないで、取り組んでくださいね。

